

坂田ヶ池 自然観察会

小川 片岡 三嶋

開催日：2018 年 11 月 17 日（土） 天気：晴れ

場 所：坂田ヶ池 房総のむら（成田市）

参加者：チアーズクラブ 11 名、イオン 4 名、東葛しぜん観察会 3 名

イオン NT 前でバスに乗った途端、おやつの交換やゲームが始まりました。みんな仲良しです。坂田ヶ池は数日前に北から渡ってきたばかりのコガモ・マガモ・ハシビロガモ・ホシハジロ、その他多数のカルガモやアオサギ・カイツブリで賑わっていました。「カモたちは旅の疲れはとれたのでしょうか？ 今年生まれたばかりの鳥たちには北の国からの長旅は大変でしたね。坂田ヶ池が春まで安心して暮らせる場所になるといいね。」そんな話をしたかったのですが…。元気な子どもたちは、話より直に見えるものに興味が集中。ハシビロガモが餌を食べる様子を観察、プランクトンを食べるための嘴のつくりを説明している傍でカメを発見し、大騒ぎになりました。コガモやマガモの♂♀の違いを間近で確認したり、遠くにいる鳥をプロミナで覗いたりしながら池の周りを歩きました。予定のストーリー通りには進まないけど、自然の中で、実物を見て、カモたちのことに少し関心を持ってもらえたでしょうか？

坂田ヶ池で冬鳥の観察をした後、池の前の坂を登ると先に見えたのは埴輪にぐるりと囲まれた円墳：101 号古墳だ。高学年の子どもは古墳がお墓だと知っていた。今年度のチアーズのテーマはエネルギー、古墳時代には電気やガスがあったのだろうか？「なかった」との回答。それでは昔の人はどのようにして燃料を得ていたのだろうか。北総台地にはコナラやクヌギなどドングリの木がたくさんある。これらの木を薪の材料にしていたのだ。またコナラやクヌギは炭の材料にもなる。県立房総の村の炭焼き小屋では今でも炭を作るのにコナラやクヌギを使っているそうだ。101 号古墳の周囲には何本もドングリの木があった。子どもたちに袋を渡しドングリ拾いをしてもらった。集めたドングリは、コナラ、クヌギ、シラカシの写真を見せて子どもたちに仕分けをしてもらった。一番多かったのはコナラだ。数は少ないがクヌギやシラカシもあり、形や殻斗の違いも観察した。

旧学習院初等科正堂前の広場で昼食後、シャベルを借りて来た。芝生に小さな土の山を見つけたのだ。半畳ほどの広さにいくつもの塚がある。掘ってみると横穴が見つかった。これはモグラが掘ったものだ。何匹のモグラが掘ったもの？ 5 匹、3 匹などいろいろな回答があった。実はこれを掘ったのは 1 匹と種明かし。モグラは孤独が好きな生き物で、子育て時期以外は 1 匹で過ごすという。モグラを捕まえたかったようだが、モグラをそっとしてあげようということで穴をそれ以上掘るのは止めた。

芝生広場ではドングリ独楽作り。ドングリのお尻をコンクリートで削り楊枝を刺して出来上がり。よく回る独楽やすぐ倒れる独楽など仕上がりはいろいろだが、子どもたちは楽しそうだった。

小 1 から小 6 の年も個性も違う子どもたちが一つのテーマで 1 年間活動することは、良い体験になると思う一日だった。



房総のむら 101 古墳でドングリ探し



坂田ヶ池公園 芝生広場でドングリこま遊び